

■フンデルトヴァッサーハウス

・設計 フンデルトヴァッサー&ウルフガン・ヘリカン

・集合住宅

・1983-1986

ウィーンは王宮・国立オペラ座などの中心地(旧市街)の回りをリンクと呼ばれる環状道路が走っている。リンク外を進むと現代的な建築物が増えてくるが、その中でも「フンデルトヴァッサーハウス」は特に際立った建築である。

直線を排除した壁面、鮮やかな原色を使っている点、生茂った屋上緑地といった特徴が有機的な印象を与えている。

しかし、数種類のサイズで構成されている窓は現実的な機能を果たしており、各々のスケール感や金属的な質感は、曲線・原色といった相反する要素とよく調和しているように思えた。

また、この開口部はフンデルトヴァッサーハウスをかりうじて集合住宅として秩序づけているものであり、絵画なのか、建築なのかといったキワドサがこの作品の最大の魅力である。

